

F2-10

近代の鉄道旅行案内書にみる中央線沿線の郊外観光発展史に関する研究

A Study on the History of Suburb Tourism Development along the Chuo Line From Modern Railway Trip Guides

○上芝聖佳<sup>1</sup>, 押田佳子<sup>2</sup>

\*Seika Ueshiba<sup>1</sup>, Keiko Oshida<sup>2</sup>

Abstract: We investigated the history of suburb tourism development along the Chuo Line from modern Railway Trip Guides. In conclusion, it is clarified that the number and quantity of tourism resources description increased mainly in suburb with time passed.

1. 背景及び目的—日本の鉄道は、軍事力の強化及び近代産業の発展を推進するため、明治期以降、各地に敷設され、1889(明治 22)年には、東海道線全線が開通した<sup>[1][2]</sup>。同年には、東海道線と並ぶ本州の幹線鉄道である甲武鉄道(現:JR 中央本線, 以下, 中央線)が営業を開始した<sup>[3]</sup>。このように鉄道網の整備が進められ、鉄道旅行という観光スタイルが誕生したことで、鉄道旅行案内書が刊行されるようになった<sup>[4]</sup>。鉄道旅行案内書は、1894(明治 27)年、民間刊行の「全国鉄道賃金名所旧跡案内」に始まり、その後、鉄道院(後の国鉄、現在の JR)も鉄道旅行案内書の刊行を開始した。鉄道院による鉄道旅行案内書は、1905(明治 36)年刊行の「鉄道作業局線路案内」に始まり、1914(大正 3)年以降は「鉄道旅行案内」としてほぼ毎年刊行された<sup>[1]</sup>。しかしながら、私鉄やバス等の交通網の発達に伴い、旅行の目的も多様化し、地域別やテーマ別の案内書が多数刊行されるようになり、鉄道旅行案内書は減少していった<sup>[2]</sup>。一方で、鉄道旅行案内書が初期の沿線の観光資源抽出に果たした役割は大きいといえ、現在の観光に少なからず影響を与えていると考えられる。

そこで本研究では、鉄道旅行案内書に記載されている路線のうち、甲州街道における輸送の代替手段として敷設された中央線に着目し、浅川(現:高尾)駅までの区間における近代の郊外観光発展史を把握することを目的とする。

2. 研究方法—Table1 に本研究で対象とした鉄道旅行案内書全 11 冊<sup>\*1</sup>を示し、調査概要を Table2 に示す。

3. 結果及び考察—Table3 に分析結果を示す。Table3 より、観光資源は全 56 件抽出され、そのうち現存するものは 35 件であった。観光資源の記載傾向は、「黎明期」「鉄道旅行発達期」「郊外観光成熟期」に 3 分類できた。以降は各期の特徴について述べる。

3-1. 黎明期—Table3 より、「①全国鉄道賃金名所旧跡案内」には、14 件の観光資源が記載され、翌年に刊行された「②全国鉄道名所案内」では 10 件であった。甲武鉄道による運営のもと 1889(明治 22)年に新宿～八王子駅間で営業を開始していたが<sup>[3]</sup>、新宿～国分寺駅間に観光資源は凝縮されており、立川以遠についてはほとんど抽出されていないことがうかがえた。また、小金井の櫻、百草園、多摩川鮎漁場、高尾山は両冊ともに距離などの基本情報に加え、説明文が詳細に記載されていた。これらの観光資源の多くは現存していることより、古くから観光資源価値が高く評価されているものであるといえよう。

3-2. 鉄道旅行発達期—前述の黎明期から約 10 年経過すると、鉄道院による「鉄道旅行案内」が刊行された。Table3 より、この時期の観光資源は 29～41 件と年を追うごとに増加する傾向がみられ、近代化が発展したことも相まって、電信隊など近代化を象徴するような観光資源も加えられた。さらに、黎明期にみられなかった観光資源の多くは、立川駅や八王子駅周辺にみられ、郊外開発が進んだことがうかがえる。一方で、説明文をみると、観光資源の名称のみ、名称と駅からの距離のみなど、情報量が少ないことがうかがえた。以上より、この時期は観光資源の詳細な説明よりも、鉄道を利用して訪れることができる観光資源を数多くあげることが重要視された時期であるといえよう。

3-3. 郊外観光成熟期—鉄道旅行発達期から約 10 年経過すると、鉄道旅行は概ね普及したといえ、⑧～⑩の「鉄道旅行案内」において、観光資源は 17～26 件と前述の鉄道旅行発達期の約半数となり、特に、新宿駅

Table2 Outline of the survey (調査概要) (This is original table by authors)

調査方法	文献調査
調査期間	2018 年 5 月 1 日～2018 年 9 月 24 日
調査対象	Table1 の全 11 冊 <sup>[5]～[15]</sup>
調査内容	鉄道旅行案内書の中央線及び甲武鉄道の部分から観光資源を抽出、文字数や記載内容について分析

Table1 Outline of the subject literatures (調査対象文献)

調査対象	書名	①全国鉄道賃金名所旧跡案内	②全国鉄道名所案内	③鉄道旅行案内	④鉄道旅行案内	⑤鉄道旅行案内	⑥鉄道旅行案内	⑦鉄道旅行案内	⑧鉄道旅行案内	⑨鉄道旅行案内	⑩鉄道旅行案内	⑪鉄道旅行案内
	著者	林荘太郎	野崎左文	鉄道院	鉄道院	鉄道院	鉄道院	鉄道院	鉄道省	鉄道省	鉄道省	鉄道省
	出版年	1894 (M27)	1895 (M28)	1914 (T3)	1915 (T4)	1916 (T5)	1917 (T6)	1918 (T7)	1921 (T10)	1924 (T13)	1930 (S5)	1936 (S11)

1: 日大理工・学部・まち、2: 日大理工・教員・まち

と中野駅周辺の観光資源及び近代化によって加えられた観光資源の記載はなくなった。一方で、鉄道旅行発達期に観光資源が増加した立川～八王子駅間については、1894(明治 27)年開業の青梅鉄道(現:JR 青梅線)や1913(大正 2)年開業の京王電気軌道株式会社(現:京王電鉄)などにより、その最寄りとなる観光資源が記載されなくなった。観光資源の分類に着目すると、立川以遠の御嶽山や高尾山など、自然観光資源並びに寺社の説明文が多くなる傾向がみられた。以上より、この時期は郊外観光が成熟し、現代観光に至る観光資源がほぼ確立した時期であるといえよう。

4. まとめ—以上より、鉄道旅行案内書にみる中央線沿線の郊外観光は、約 40 年間の時代の経過に伴い、国分寺駅から八王子駅、さらに、浅川(現:高尾)駅までと徐々に拡大する様子を捉えることができた。これに伴

い、観光資源も遠方に行くほど記載件数や、説明文も詳細に記載されるようになり、近代施設よりも自然資源や寺社などが観光客を誘致できる観光資源であると評価されたことを捉えた。このような観光資源の抽出プロセスを経て、現代観光まで受け継がれる観光資源価値が確立されたといえよう。

5. 補注・参考文献

【補注】

※1 現在入手できるものに限り調査を行なった。

【参考文献】

[1]平田剛志,『鉄道省編『鉄道旅行案内』諸版の比較研究』,Core Ethics, Vol.8, pp.513~523, 2012 [2]山本光正,『旅行案内書の成立の展開』,国立歴史民俗博物館研究報告, pp.109~135, 2010[3]中村建児,『中央線誕生』,株式会社交通新聞社, pp.18~22, 2016 [4]荒山正彦,『シリーズ 明治・大正の旅行 第1期 旅行案内書集成』,ゆまに書房, pp.10~15, 2014 [5]林荘太郎,『全国鉄道賃金名所案内』,林荘太郎, pp.293~305, 1894 [6]野崎左文,『全国鉄道名所案内』,巖々堂, pp.299~314, 1895[7]鉄道院,『鉄道旅行案内』,鉄道院, pp.68~71, 1914 [8]鉄道院,『鉄道旅行案内』,鉄道院, pp.59~61, 1915[9]鉄道院,『鉄道旅行案内』,鉄道院, pp.104~107, 1916 [10]鉄道院,『鉄道旅行案内』,鉄道院, pp.124~128, 1917[11]鉄道院,『鉄道旅行案内』,鉄道院, pp.125~131, 1918 [12]鉄道省,『鉄道旅行案内』,鉄道省, pp.90~97, 1921 [13]鉄道省,『鉄道旅行案内』,鉄道省, pp.101~108, 1924 [14]鉄道省,『鉄道旅行案内』,鉄道省, pp.103~114, 1930 [15]鉄道省,『鉄道旅行案内』,鉄道省, pp.92~101, 1936

Table3 Survey result of Railway Trip Guides (鉄道旅行案内書の分析結果)

(This is original table by authors)

駅名	開業年	観光資源	分類	現存	黎明期		鉄道旅行発達期					郊外観光成熟期							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪				
新宿	1885 (M18)	新宿御苑	公園	○	51 字	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		大久保御園	寺社	○	93 字	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		大久保御園	自然	×	166 字	—	—	3 字	3 字	3 字	3 字	3 字	—	—	—	—	—	—	
中野	1889 (M22)	交通兵旅団司令部	近代施設	×	—	—	—	3 字	3 字	3 字	3 字	—	—	—	—	—	—	—	
		電信隊	近代施設	×	—	—	—	—	2 字	2 字	2 字	—	—	—	—	—	—	—	
		東京府農事試験場	近代施設	×	—	—	—	4 字	3 字	3 字	3 字	—	—	—	—	—	—	—	
		農商務省農事試験場	近代施設	×	—	—	—	4 字	4 字	4 字	4 字	—	—	—	—	—	—	—	
		堀内妙法寺	寺社	○	201 字	171 字	29 字	30 字	30 字	30 字	30 字	26 字	26 字	63 字	66 字	—	—	—	
		新井薬師	寺社	○	58 字	49 字	14 字	14 字	14 字	14 字	14 字	28 字	22 字	45 字	43 字	—	—	—	
		哲学堂公園	公園	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	58 字	
吉祥寺	1899 (M32)	井頭恩賜公園	公園	○	—	—	—	—	—	—	60 字	146 字	124 字	211 字	216 字	—	—		
		井頭辨財天	自然	○	248 字	288 字	52 字	52 字	72 字	84 字	—	—	—	—	—	—	—		
境 (現:武蔵境)	1889 (M22)	小金井の櫻	自然	○	433 字	484 字	73 字	73 字	162 字	191 字	197 字	241 字	249 字	287 字	278 字	—	—		
		深大寺	寺社	○	—	179 字	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29 字		
国分寺	1889 (M22)	百草園	自然	○	252 字	386 字	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		国分寺址	寺社	○	—	—	4 字	4 字	4 字	4 字	24 字	24 字	28 字	28 字	28 字	—	—		
		國府址	遺跡	○	—	—	4 字	4 字	4 字	4 字	35 字	35 字	35 字	13 字	—	—	—		
		大園魂神社	寺社	○	153 字	392 字	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	14 字	91 字	—	—		
		高安寺	寺社	○	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	—	—	—	—	—	—		
		称名寺	寺社	○	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	—	—	—	—	—	—		
		妙光院	寺社	○	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	—	—	—	—	—	—		
		分倍河原古戦場	戦跡	○	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字		
		向ヶ丘	自然	○	56 字	—	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	—	—	—	—	—	—		
		小山田園	自然	×	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字	—	—	—	—	—	—		
		多摩川鮎漁場	自然	×	325 字	320 字	4 字	4 字	4 字	4 字	4 字	30 字	30 字	30 字	30 字	—	—		
		立川	1889 (M22)	御嶽山	自然	○	450 字	—	—	—	—	—	62 字	59 字	59 字	91 字	151 字	—	—
				拝島の大日堂	公園	×	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	6 字	—	—	—	—	—	
				羽村の水道水源	水源	×	—	—	—	0 字	0 字	0 字	20 字	—	—	—	—	—	
青梅山金剛寺	寺社			○	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	8 字	—	—	47 字	135 字	—			
吉野の梅林	自然			○	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	72 字	56 字	77 字	151 字	97 字	—			
二俣尾の桃林	自然			×	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	4 字	—	—	—	—	—			
日原の鍾乳洞	自然			○	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	18 字	28 字	28 字	30 字	—	—			
御嶽神社	寺社			○	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	44 字	—	—	33 字	48 字	—			
菅濟寺	寺社			○	—	233 字	17 字	17 字	17 字	17 字	17 字	—	—	53 字	42 字	—			
谷保天満宮	寺社			○	—	—	5 字	6 字	6 字	6 字	6 字	—	—	—	—	—			
東京府蚕業取締所	研究所			×	—	—	—	—	3 字	16 字	16 字	—	—	—	—	—			
東京府原蚕種製造所	研究所	×	—	—	—	—	—	4 字	4 字	—	—	—	—	—					
日野	1890 (M23)	高幡不動尊	寺社	○	—	—	5 字	5 字	5 字	3 字	3 字	—	—	—	—	—			
		百草園	自然	○	—	—	44 字	34 字	34 字	34 字	34 字	—	—	—	—	—			
豊田	1901 (M34)	東京府農事試験場分場	研究所	×	—	—	—	—	3 字	3 字	3 字	—	—	—	—	—			
		豊田整理耕地	農地	×	—	—	—	—	3 字	3 字	3 字	—	—	—	—	—			
八王子	1889 (M22)	御園公園	公園	×	—	—	3 字	3 字	3 字	3 字	—	—	—	—	—	—			
		大善寺	寺社	○	—	—	6 字	6 字	6 字	6 字	—	—	11 字	29 字	27 字	—			
		梅洞寺	寺社	○	—	—	5 字	5 字	5 字	5 字	—	—	—	—	—	—			
		模範村戸倉村	村	×	—	—	—	—	47 字	47 字	47 字	—	—	—	—	—			
		明治村青年會	近代組織	×	—	—	—	—	4 字	4 字	4 字	—	—	—	—	—			
		織物整理汚染工場	工場	×	—	—	—	—	—	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字			
		織物整理工場	工場	×	—	—	—	—	—	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字			
		織物工場	工場	×	—	—	—	—	—	—	—	0 字	0 字	0 字	0 字	0 字			
		信松院	寺社	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36 字	36 字			
		八王子城址	城	○	170 字	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5 字	3 字			
		浅川 (現:高尾)	1901 (M34)	高尾山	自然	○	435 字	313 字	84 字	66 字	66 字	75 字	71 字	190 字	190 字	237 字	265 字	—	
多摩陵	墓地			○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	166 字	166 字			
小仏峠	自然			○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80 字	78 字			
八幡八雲神社	寺社			○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30 字			
大垂見展望地	展望地			×	—	—	—	—	—	—	—	—	17 字	10 字	10 字	—			
計			56			35	14	10	29	33	39	40	41	17	18	25	26		

【凡例】—: 記載なし ○: 現存するもの 0 字: 観光資源の名称のみ ※①~⑪は Table1 と対応する